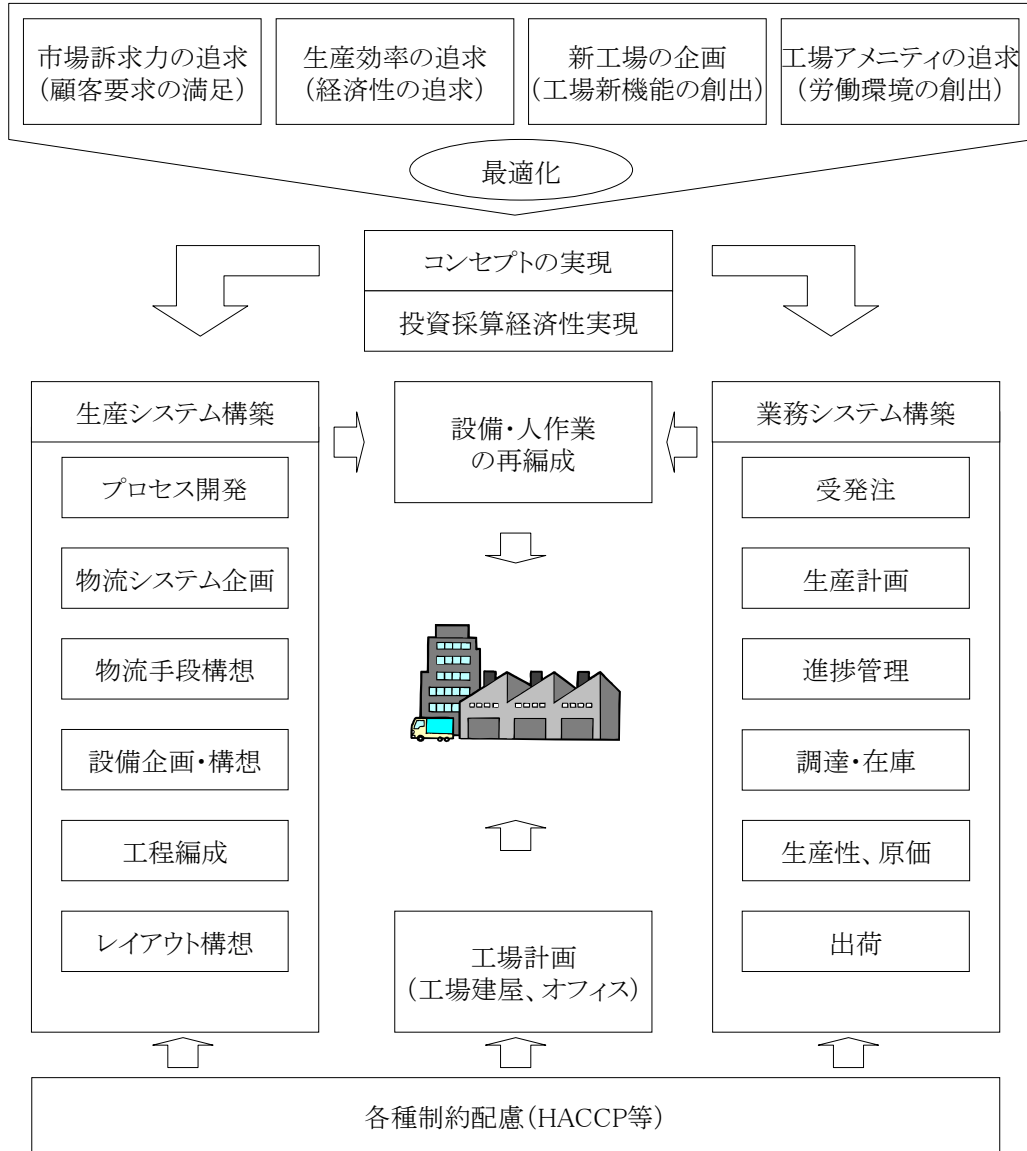
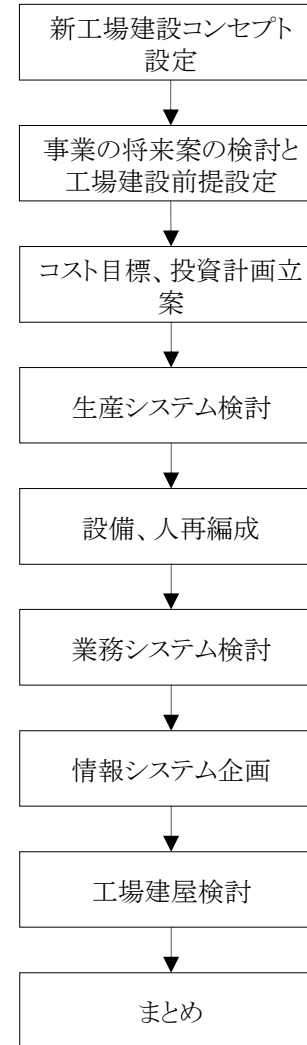


新工場建設活動構成例



展開ステップ



7・8 新工場建設企画 (1/3)

新工場は様々な期待、狙いを持つて建設されますが、その中でも、事業に対してどのような貢献をさせるかを考えることが重要です。売上貢献のための顧客満足度向上機能、利益貢献のための生産効率向上機能、さらに市場への情報発信の手段として活用されることもあります。

建物の検討と並行して、内部の生産システム、業務システムの検討も重要です。ここでは工場のライフサイクルを考えて10年〜20年先を考えた商品種、生産量、その拡大可能性等の長期的視点に立った事業計画が基本となります。さらに投資採算性を考えた検討が必要で、事業計画を基本として、設備費、労務費、材料費のコスト構成・総額から、将来のコスト構成割合を推定し、可能な設備投資額を導き出すような採算性の検討が求められます。また食品工場では、食品偽装や品質管理の問題が発生しており、HACCP等の考えを盛り込んだ工場建設等が求められています。

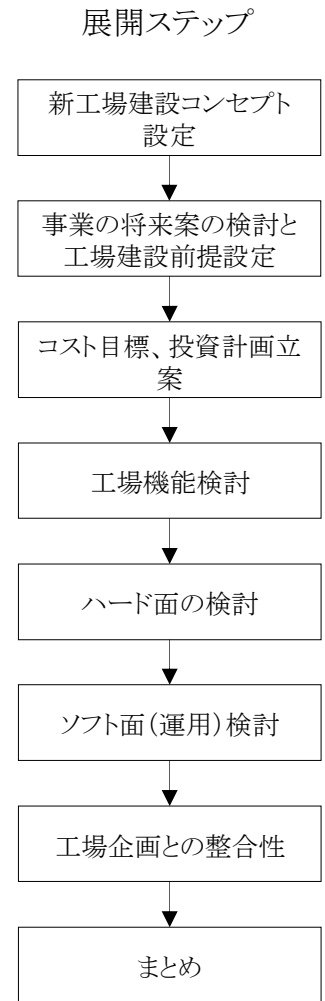
工場建設は数十年に一度の大事業で、経験者が社内にもいない場合が多く、専門家を有効活用して、納得のいく検討をすべきです。

7・8 新工場建設企画（2／3） 新工場付加価値機能体系

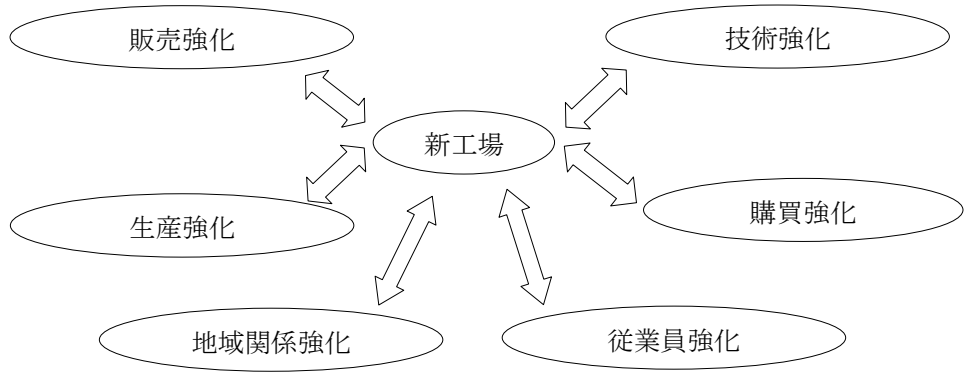
新工場では、もの造り以外の様々な機能を持たせ、付加価値の増大に努めることも大切です。たとえば、

- 一、展示場機能を工場内に持たせ、お客様に来て頂き、商品を見て頂く、商談をして頂く、さらに具体的な技術検討や試作・トレーニングを行うて頂くことで、お客様を丸ごと引き込むような機能を持たせることも出来ます。
- 二、商品を見て頂き、使って頂き、マーケティングにつながるような機能をもたせることも出来ます。
- 三、グローバル生産体制としての、マザー工場としての開発、試作、生産立上げ、トレーニング等の機能や、生産設備、生産ライン検討の機能を持たせることも出来ます。
- 四、R/Dの開発工場として、様々な試作や改造の機能を持たせることも出来ます。
- 五、公園工場として、地域の方々スペースや憩いの場、緊急避難場所の提供など地域密着型工場として整備することも出来ます。

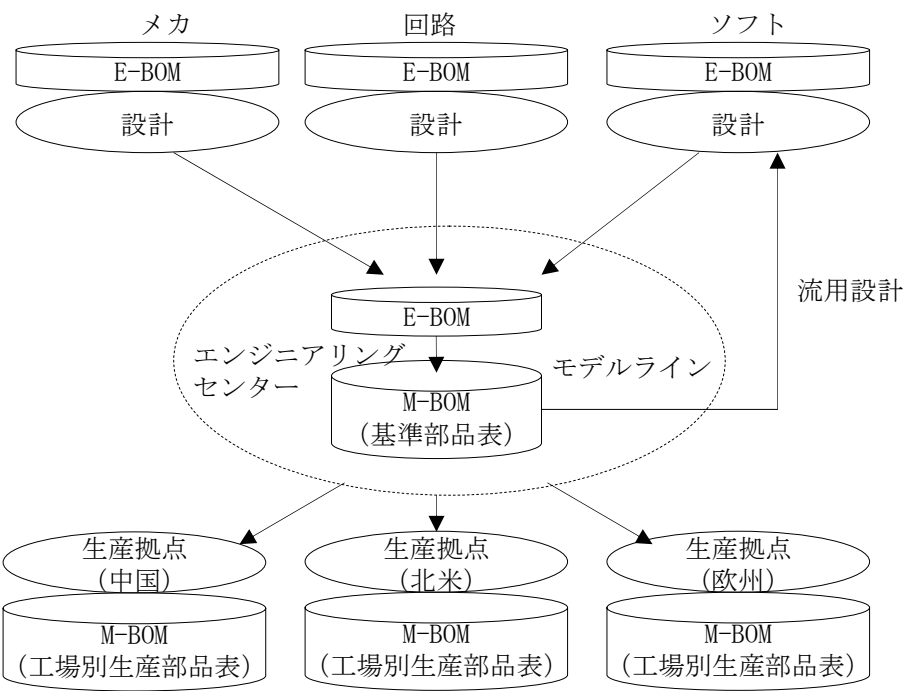
これらは一部の例ですが、将来の顧客満足度向上、競合優位性発揮を目指して、どの様な付加価値機能を工場に持たせるかを、幅広く検討して見てください。



工場付加価値検討視点例



多くの生産拠点を抱えた企業での開発センターの役割

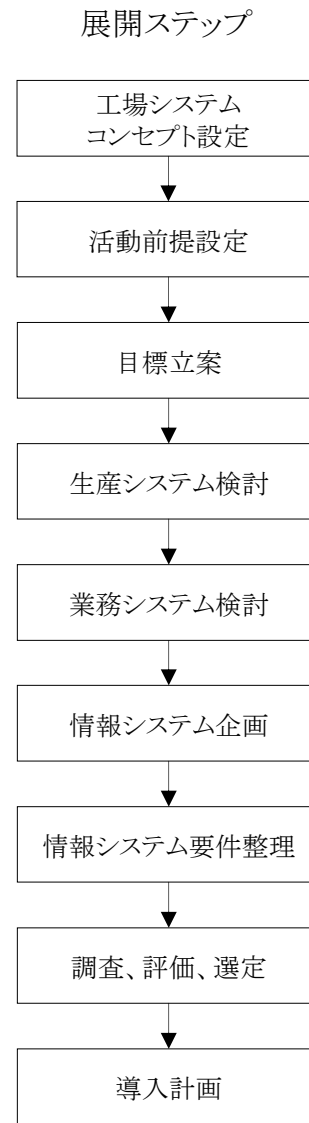


工場を運営するには、商品の開発とそれを製造するための生産システム、受注と連動した生産計画、必要な資材の手配・在庫管理、その資材を活用した生産活動、完成品の在庫管理、受注の条件に合わせた出荷納品管理、更にそれらに関わる費用の支払い、売上の請求、従業員の管理等様々な機能が体系的に連携して処理されなければなりません。それらのどれか一つでも不具合を起すすと工場としての機能不全を起こしてしまいます。工場は大きなシステムであり、それらを支えている人、もの、金、情報の管理徹底が求められます。

図には工場の業務や情報の流れに注目した主要なものを表示しましたが、ここに載らないような細かなしくみも多々必要になるはず。活動に当っては、常にこれらの全体像を示し、漏れのないような検討を進める必要があります。

これを関係者全員が認識し、常に議論し、あるべき姿を検討していくことが重要です。

見込型生産と受注型生産では、受注、生産計画、在庫管理、発注等が異なります。各社の事業特性に沿った生産の基本パターンを明確化し、その上で検討項目を明確化し、連携して活動を展開してください。



工場システムの構成例

